

# 令和5年度研究計画書

令和5年 4月 26日

研究種類	基盤研究		
研究課題	富士北麓におけるコウモリ類のねぐら生態および採食生態		
研究代表者	中村圭太（自然環境・共生研究科）		
研究期間	令和3年度～令和5年度（3カ年）		
共同研究者	高田隼人（東京農工大学）大脇淳（桜美林大学） 中野隆志（広報交流部）井上英治（東邦大学） 早川卓志（北海道大学）佐藤顕義（(有)アルマス） 勝田節子（(有)アルマス）	研究協力者	
研究目的		研究目標	
富士北麓におけるコウモリ類の保全のために必要なねぐら利用様式や食性に関する基礎生態情報を得る。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ウサギコウモリのねぐら利用、個体群動態および食性の解明</li> <li>2. テングコウモリおよびコテングコウモリのねぐらトラップ利用および食性の解明</li> <li>3. 各種コウモリ類の食物をめぐる種間関係および食性の種内変異の解明</li> </ol>	
全体の研究計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ウサギコウモリのねぐら利用調査：ウサギコウモリのねぐら利用が確認されている人工建造物で利用状況、糞のサンプリング、ビデオカメラによる出巢・帰巢時間の記録をおこなう。これにより、季節的・経年的なねぐら利用および個体群動態、出巢生態を検討する。</li> <li>2. テングコウモリ、コテングコウモリのねぐら利用調査：麻布を材料として枯葉に模したねぐらトラップを富士北麓のアカマツ林に設置し、周年的にテングコウモリおよびコテングコウモリの利用状況を調査する。また、生息状況を把握するため捕獲調査を行う。1. 同様に糞のサンプリングとビデオ撮影を実施し、選好するトラップの差異、両種の季節的・経年的なトラップの利用様式、出巢生態を検討する。</li> <li>3. 糞分析：上記 1.2.で採取した糞を対象に顕微鏡分析および次世代シーケンサーを用いたDNAメタバーコーディング分析を実施する。これにより糞中に含まれた餌生物種の同定および、相対的な食物構成割合を検討する。</li> <li>4. 食物供給状況調査：富士北麓アカマツ林およびカラマツ林でライトトラップを用いた夜行性昆虫類の捕獲調査を実施する。これにより環境中の食物供給状況を推定する。</li> <li>5. 他地域との食性比較：山梨県早川町の山地帯落葉広葉樹林でテングコウモリ、コテングコウモリの糞のサンプリングをおこなってきた。これらの調査を継続すると同時に、糞を3.と同様の分析をおこなうことにより、食性の地域変異および種間関係について検討する。</li> </ol>		
前年度研究計画及び研究成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ねぐら利用と出巢時間の記録、糞のサンプリングを実施（80%終了）</li> <li>2. ねぐら利用と出巢時間の記録、糞のサンプリングを実施（80%終了）</li> <li>3. 顕微鏡分析・DNA分析を実施（60%終了）</li> <li>4. 昆虫捕獲調査を実施（80%終了）</li> <li>5. 顕微鏡分析を完了（100%）</li> </ol>		
実施内容	上記、全体の研究計画の1.～4.の項目を実施予定。		
期待される研究成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>* コウモリ類の食性やねぐら、出巢時間などの基本的な生態情報が得られる</li> <li>* 食物をめぐる種間関係の検討により、コウモリ類の多種共存機構の解明に貢献できる。</li> <li>* また上記の情報から、各種の餌資源やねぐら資源への要求を明らかにできるため、各種の保全政策を進める上で、どのような環境を維持もしくは創出する必要があるかを提言できる。</li> </ul>		

